

令和4年度 第3回千代田区文化財保存活用地域計画策定委員会 議事録

日時：令和4年9月15日（木）午前10時～12時

会場：九段生涯学習館（3階第1学習室）

出席者（敬称略）：

委員

【学識経験者】

谷川 章雄	岩淵 令治	三友 奈々
山崎 鯛介	瀬戸口 龍一	
齋藤 慎一	菊池 健策	

【文化財保存活用支援団体】

太田 耕司	北島 敦子
三田 雅康	鈴木 宏昌

【商工・観光関係団体】

高山 肇

オブザーバー

原 眞麻子	宮前 功
-------	------

行政委員

恩田 浩行	末廣 康二	夏目 久義
加藤 伸昭	前田 美知太郎	
丸山 玲	神原 佳弘	

事務局

七澤 將	山田 将之	相場 峻
高木 知己	篠原 杏奈	

配付資料：次第

令和4年度委員名簿

資料1 区民アンケートの結果報告について

資料2 文化財所有者アンケートの結果報告について

資料3 令和4年度以降の進め方について

資料4 文化庁目次案との対応表

資料5 目次案

参考資料 区内の歴史・文化資源に関する調査報告書

議事内容

開会

1 ごあいさつ ー文化スポーツ担当部長ー
文化スポーツ担当部長恩田よりあいさつ

2 委員紹介

～事務局より、令和4年度委員、本日の出席委員について説明～

3 会議の公開について

～事務局より、会議の公開について諮問～

4 議題

～事務局より、配布資料について確認～

(1) アンケート調査結果の報告

～事務局より、アンケート調査結果の報告について説明～

【祭礼の具体例、寺社仏閣の分布について】

(恩田部長)

- ・神保町地区の「祭事・伝統芸能」の分析として神田祭が挙げられているが、これだけではなく、水道橋の三崎神社の祭りも大々的に行われており、その印象も含まれているのではないかと。また、神田公園地区のまちのイメージとして「伝統ある祭礼と寺社仏閣のまち」が多いということについて、神田公園地区には稲荷神社が多いエリアであるため、やはりその印象も残っているのではないかと。

(岩淵委員)

- ・地域ごとに祭礼や寺社仏閣についてかなり差が出ている印象がある。和泉橋地区では、若い方や居住歴が短い方でも祭礼に参加しやすい環境にあるということだったが、具体的に、例えばこの地域では参加しやすい祭礼があるのか伺いたい。また、万世橋地区と和泉橋地区では寺社仏閣が他の地域と比較して多いということについても補足して説明いただきたい。

(恩田部長)

- ・和泉橋地区の祭礼としては柳森神社があり、町会の青年部の活動が活発な印象があるため、

そういった形で認知度が上がっているのではないか。

(岡嶋)

- ・ 寺社仏閣については、参考資料の 43 ページで、文化財の分布をプロットして示している。こちらより、万世橋地区の周辺などで多く分布していることが見られる。

(岩淵委員)

- ・ 万世橋地区の場合は、台東区と隣接していることも少し影響していると思う。

【文化財に対する関心・無関心について】

(瀬戸口委員)

- ・ 解釈の問題として、区民アンケートの文化財の悪いイメージとして「悪いイメージはない」という回答を肯定的な意見としているが、これはおそらく無関心ということなのではないか。興味がないというところが大きく、肯定的と捉えることは難しいのではないか。

(谷川委員長)

- ・ 読み取り方としては、やはり無関心も含んでいるというよりは、むしろ「興味がない方」が多いのかもしれない。

(三田委員)

- ・ 先ほどの和泉橋地区の祭礼に興味が高いという点について、神田祭の宮入の後には、秋葉原の歩行者天国にお神輿が集まり、そこが撮影スポットになっている。おそらく住民はそれを身近に見ているのではないか。
- ・ また、麴町地区の人が文化財事務室主催の事業に行くことについては、10 年前まで四番町に歴史民俗博物館があったことが由来していると思う。そこから日比谷に移転していることについても視野に入れておいた方がいいのではないか。

(北島委員)

- ・ 区分図を見ると、非常に広い範囲が麴町地区になっているが、エリア内には図書館が 3 件あり、歴史的なものというより日比谷図書文化館などの施設に対しての意識が高く、「文化」を感じている傾向にあるのではないか。

(三友委員)

- ・ 2 千人に対し、651 人からの回答で、有効回収率が 32%となっており、多くの方が回答してくださっているのだということが率直な感想である。また、関心ある方がたくさんいたことも良かったと思う。ただし、一方で回答してない方が 3 分の 2 であり、その多くの方

はおそらく無関心が理由と考えられるため、このようなアンケートの際には、厳しい意見をよく見て進めることが大事だと思った。

- ・対象の2千人については、年齢や居住地などの属性はわかるのか。その2千人の属性がわかれば、回答者の傾向が何か分析できるのではないか。

(山田)

- ・属性については区で把握している。

(三友委員)

- ・母数的に厳しいかもしれないが、年齢や居住地ごとに無関心の方の分析ができたら良いと思った。

(山田)

- ・分析に追加して整理を行う。

(谷川委員長)

- ・どのような人にアンケートを出して、どのぐらい回収したのかは重要な問題であるため、それはぜひお願いしたい。

(谷川委員長)

- ・特に地区ごとの分析は非常に興味深く、文化財や歴史文化を身近に感じるかは、年齢や居住歴だけでなく、どのような場所に住んでいるかによって意識が違ってくる。その上で、関心を持っているものについて差が出ていることは大変面白く感じた。また、文化財や歴史文化に対する関心と、地域社会の関わりは大変重要であると感じている。推測だが、やはり地域社会に関わっている方は、歴史や文化にも関わっている傾向が強いのではないか。先ほどの柳森神社のお話などを伺っていると、地域の活動の中で歴史文化への関わりが自然と含まれている印象がある。地域ごとの活動のあり方をローデータとして、区の方で認識されていることや、各種アンケートなども踏まえて、地域の特徴と文化財や歴史・文化に対する関心の繋がりが、もう少し具体的にわかってくると、クリアになってくるのではないか。

【文化財所有者アンケートについて】

(高山委員)

- ・区民アンケートでも大変関心が高かったお堀について、例えば皇居の東御苑がある。文化財所有者への調査の中で、例えば東御苑の管理者に話を聞くチャンスはなかったのか。皇居の関係者が文化財やその活用に対して、どのような考えを持っているのかは私としては

最大の関心事であり、こういう機会に本当は聞いてもらいたかった。

(山田)

- ・まず区民の文化財所有者に対しアンケートを実施しているが、そこから漏れてしまっている例えば東御苑の関係者や企業・大学など、話を聞いておくべき方々は他にも存在するため、前回の会議でも示したように、今年度中に必要に応じてヒアリングの実施を検討していきたい。そのため、委員の皆様には、聞いた方がよいことや足りていない意見についても挙げていただきたい。

(谷川委員長)

- ・今回は入口として区指定文化財の所有者にアンケートを実施したということで、実際に東御苑の管理者から江戸城全体について考えていることを聞くことは、実はこの地域計画の根幹の部分にもなる。住民の方を含め多くの方が、江戸城や現在の皇居に対して強い関心を持っているため、その公開や景観、管理などについてはやはり取り上げなければいけない問題だと認識している。
- ・アンケートでそれぞれの状況というものがわかったため、これを踏まえて個別に色々話を聞いた方がいいのではないか。アンケートを実際に行ったことに意味はあったと思うが、それだけではなく、それぞれの持っているもう少し細かい事情を詳しく聞くことは、大切なのではないかと思う。

(山田)

- ・今回のアンケートにあたっては、各所有者には事前にご連絡をし、今回お伺いしたご意見をもとに、改めてヒアリングをさせていただくことについて協力をお願いしてある。今年度の計画として、それを進めていきたい。

(山崎副委員長)

- ・文化財所有者アンケートでは、対象が指定文化財の所有者となっているが、今回の文化財保存地域計画としては、登録や未登録、未指定などをどれだけ広く取り込めるかということで議論しており、例えば登録文化財の所有者などからも話を聞く必要がある。例えば、指定文化財であれば出る補助も登録文化財に関しては出ないため、その中での維持管理という問題がかなり重要な情報になってくる。指定文化財所有者では対象を少し絞り込み過ぎであり、今回の地域計画の対象と少しずれている感じがする。

(谷川委員長)

- ・指定されていない文化財でも、例えば区の方である程度認識しているものがあると思う。そういうものもやはりフォローアップしていかないとならない。今後、未指定のものにつ

いて所有者がどのような考えているのかについては、いずれにせよ検討していただく必要がある。

(2) 令和4年度の進め方について

～事務局より、令和4年度の進め方について説明～

(谷川委員長)

- ・昨年度は、今の千代田区の文化財や行政のあり方についてテーマ別の話をしてきたが、最終的に地域計画という形でまとめる必要がある。これは文化庁に提出するものとして、目次がある程度決められているが、いきなりその目次に向かってしまうと、昨年度我々が議論した具体的な中身との繋がりがよく見えなくなってしまう。そのため、昨年度行われた議論と大体の目次の繋がりが分かるような形で作っていただいたのがこの資料5となる。
- ・最初の出発点として、この会議で考えなければいけないのは、区民とは何かということ。計画の対象をきちんと固めておかなければいけないのではないかと。千代田区の場合は、夜間人口だけでなく昼間人口も多くあり、様々な関わり方を人々は持っている。そういう人々をこの計画の対象者としてどのように考えていくかということは、大都市東京の中心である千代田区にとって非常に重要な出発点になると思う。
- ・次に、千代田区の文化財の特徴について、柱をいくつか決めなければいけない。そこから保存や活用を考える形になる。千代田区の文化財は、都心の他の区とは異なる特徴があるため、それを明確に打ち出していくことが、この計画のもう1つの入口になると思う。
- ・その2点が決まり、ある程度見通しがつけば、今度は保存活用の方針や、文化財の裾野をどう広げるのかなど、もう少し具体的な議論になってくると思う。

【地域計画の対象について】

(谷川委員長)

- ・まず、区民というものについては、有識者会議という形で1回議論をした。そこでは、千代田区には様々な関わり方がある中で、例えば、学校を卒業した人や転出してしまった人、買い物に来る人、博物館や美術館を訪れる人はどうするのかという議論があった。最終的には、山崎先生のおっしゃった「継続性」を核にして広がりを持つことで、外から来る人にも千代田区の歴史文化のすばらしさをアピールしていく考え方が良いのではないかと。また、観光客については排除するのではなく、住民や千代田区に継続的に関わっている人が、内部から発信していく形で、外部を巻き込んでいく方法も残しておく必要があるのではないかとというイメージになった。

(齋藤委員)

- ・今回の保存活用計画の1番の対象は文化財そのものであり、それに携わる人が区民という

ことになる。その活用という側面では、継続性の視点は当然重要であるが、一過性の部分もかなり重要な問題になってくるのではないか。例えば、文化財のシンポジウムをやった場合に、その地元の住民だけではなく、そこに興味を持つ人が他県からもやってくるということがある。そのため、観光だけではなく、その文化財の利用者という視点で、文化財に関わるあらゆる人たちに向けて、活用は組むことが大事なのではないか。

(谷川委員長)

- ・継続性の問題は、一過性のものはどのように捉え、位置づけるかということであり、むしろ積極的に考えるべきだという考え方は当然あると思う。これは今日ここで決めるという話ではないため、ご意見をいただきたい。

(高山委員)

- ・やはり観光でいうと、テレビでも報道されてるようにオーバーツーリズムの問題があると思われるが、千代田区の場合はインフラのキャパシティを考えると、まだまだ大丈夫なのかなという気持ちがある。そういう点では、齋藤先生がおっしゃった通り、文化財の視点で言えば、幅広に千代田区を愛してくれる人たちを全部対象にしてもいいのではないか。

(末廣商工観光課長)

- ・今年度の商工振興基本計画の改定にあたっては、観光分野も1つの柱になっている。その中では、文化財等の有効活用もあげさせていただいているが、そこまで踏み込んで人を集めるという目的と、商工関係の目的は若干ずれてるところがあるため、その調整しながら、今後のPR方法を工夫できたらと考えている。

(鈴木委員)

- ・文化財は伝統が一番の基礎になると思うが、外から来る人にとって魅力を感じるものとしてはやはり美味しいものや趣味の店であり、特に若い人にはそういう傾向があるため、なかなか歴史や伝統にまで目がいけないのが現状ではないか。住民としても、祭りに一番伝統を感じるころではあるが、実際に歩いてみても歴史的な建物にはあまり目がいけないような気がする。そのため、子どものうちに教育的な方法で歴史を伝え、それを誇りに思ってもらえるようなまちづくりが一番良いのではないか。

(山崎副委員長)

- ・対象を絞るのではなくて幅広に取る1つのメリットとしては、文化財を守るために観光や都市計画とバッティングするこれまでの縦割りの状態ではなく、もう少し総合的に捉えることで横断的に話ができることである。そのためには、区民を定義するというような形にはせず、できるだけ閉じない方がいいのではないかと感じている。

(岩淵委員)

- ・先ほどのオーバーツーリズムの話とは少し異なり、今回の文化財の活用ではストーリーについても重視されていると思うが、そこの方がやはりせめぎ合いの問題があるのではないか。区民の定義について継続性や在住を重視した場合に、区民が発信したい内容と、現実として先ほどの美味しいものや面白い店があればいいという問題とどう摺り合わせていくかは非常に難しいと思う。外部からの見た新しい発見と良い関係で発信できるようなストーリーが作れると良い。
- ・また、山崎委員の発言にもあった、縦割りの現状について、それぞれの計画とどう連動して、区として総合的にやっていくかというところを早く調整するための話し合いも重要なのではないか。

(菊池委員)

- ・区民を広く捉えることは賛成だが、文化財の活用にあたってはその負担の問題もある。負担をする側の数を確保しなくてはいけないことを念頭に置き、区民の概念を捉えていくことが良いのではないか。ただし、文化財によって負担の仕方は異なるため、これにどう了解してもらうかということも考えなければいけない。

(谷川委員長)

- ・文化財は基本的には保存をして、管理をして、活用をしていくということだが、その活用にウエイトかかり過ぎると、保存の方にどうしても問題が起きてしまう。そのため、やはり主体をどこに置くかという視点が必要であり、継続性のある人たちを核にしていくにあたっては主客転倒しないよう考えた方がいい。また、外側へ開くことによって、内側が豊かにならないと意味がなく、それがむしろ過重な負担となってしまっは本末転倒であるため、どうやって外側に開いていくかが問題だが、やはり主体性は内側にあるということは意識しなければならないと思う。

(太田委員)

- ・アンケートの件に戻っての感想だが、教育機関との関係を強化すべきという意見に対し、学校としては小学生のうちから区内巡りのようなことはやっており、東御苑についても中学校の雅楽教室で楽部にお邪魔することがある。今後さらに機会を増やしていくことが必要であるとも思うが、教育過程においては、ほかにもやるべきことがあるため、さらに機会を増やすように一概には言えない。
- ・保存活用については、どちらが良いとはなかなか言えないが、文化財は保存が大事であり、保管や維持も非常に大切だと思う。千代田区が観光地でもあることは確かなため、区民の定義よりも、こういう人たちにはこのような活用の方法がある、こういう人たちでこうい

う保存をしていくという両面があるべきだと思う。その活用において、私たち教育機関が子どもたちに伝えていくことが必要ではないかと考えながら議論を聞かせていただいていた。

(三田委員)

- ・対象者について、私は住民として常に昼間・夜間人口などの考え方に晒され、区別されることにずっと不快感を抱いている。そのため、保存については、役割が決まれば独自に対象が入るため、逆にそこを語らないことで不快感を無くせるのではないか。千代田区が特殊な区であることなどは、外から言われ続けていることであり、それをまたここでまな板の上にあげてしまうのかと思っている。

(谷川委員長)

- ・かなり強烈なご意見であり、我々ももう少し出発点を考え直さなくてはいけないのではないか。一過性と継続性で区別するのではなく、先ほどの齋藤先生のお話も含め、線はあまり引かない、あるいは、線を引いてもその線の外側まで含むというような柔らかさが必要ということになる。

(山崎副委員長)

- ・もし境界線があるとすると、その線上にいるものをどう扱うかというところが、今後の課題になってくる。少し先の話で、将来、文化財を誰に担ってもらうかという課題がある。千代田区の場合は皇居といった特別なものは既にあるが、今ある文化財を守るだけでなく、これから文化財になるものを発見し、近現代の文化財を積極的に増やすことで、それに関わる人を増やしていくことも今回の地域計画の大きな目的の1つでもある。
- ・そのため、千代田区の場合は近現代も対象にその価値を再発見していかなければいけないことと、それを誰に担ってもらうかという時に大きな役割を果たすと考えられる民間企業や大学を当事者としてどう巻き込むかというところが今後の大きな課題になる。議論では、内容に即して「何を」というところが抜けており、「誰を」という話が先に進んでいる。これらをセットで考えることで議論が膨らんでいくのではないかと期待している。

(高山委員)

- ・三田さんのお話には地域性があると思いながら聞いていた。私も神保町の育ちだが、今は住人の8割以上がマンションに住んでいる。マンションの住人は大体外に働きに行き昼間はいないため、昼間のコミュニティを考えると、むしろ地域で働いてる人との繋がりの方が大きい。神保町では、例えばお祭りは企業も一緒になってコミュニティに入ってもらって、町会や商店会の運営をしている。ここ20~30年でマンションに住む方が多くなった一方で、在勤者も増え、千代田区の勤務者は本社勤務ということで長く関わる場合も

多い。また、千代田区には大学が 11 校もある中で、学生の皆さんにもコミュニティの中に入れてもらい、在勤・在学者と住人が一緒に 1 つのコミュニティを作っていくという方向の方がよりハッピーだろうと思う。そういった中では、区民の定義よりも、やはりコミュニティのあり方が重要だろうと思う。そういった意味では、来街者や観光客は、少し一線を引くが、商店街にとっては大事なお客様であるため、良い形で取り入れていきたいと思っている。つまり、規定よりも方向性であり、できるだけ広く括っていくような方向を確認した方が、千代田区の発展にそぐうような整理になるのではないか。

(北島委員)

- ・今の高山委員や三田委員と近い考えを持っている。私は、昼間は大田区で仕事をしているが、千代田区ファンにお会いすることが多い。それを踏まえ、私自身も何十年と住んでいる中で、千代田区はやはり利便性という素晴らしさがあるため、その利便性を求めて千代田区に住まれ、千代田区には根付かないままでも転居される人もいる。その一方で、企業に長く勤め、引越しても千代田区が好きで遊びに来たりする人もいるため、それを広い範囲で捉え、文化財との関わりをもう少し深掘りしていくと、新しい発見があると思う。先ほど図書館の話をしたが、日比谷図書文化館はサラリーマンなど色々な方が利用しており、こういった方々もある意味千代田区ファンだと思われるため、そこをもう少し深掘りできたらと思う。

(齋藤委員)

- ・対象者というものを一面で考える必要はなく、利用する人としての広い視野と、保存に関わる人はまた特別であるため、分けた方がいいだろうと思う。おそらくそれは、今回の計画が一体何を手段としてどういう特徴を持っていくかということに関わってくるのではないか。そういったところを考えてこれからも議論していけばいい。

(山崎副委員長)

- ・蛇足ですが、「何を」という議論は、今後第 4 章の千代田区の歴史文化の特徴として何を取り上げるかということに発展させていかなければいけない。そのたたき台でいえば、第 4 章で示されているいくつかのトピックについて、1 つ 1 つ誰がどう関わるかという話がガラッと変わるような内容になっている。実際に議論しなくてはいけないのは第 4 章であり、それを漏れがないよう補完するものとして序章で広く捉えるということで、今後議論がこちらの方にスライドしていただきたいと思います。

(谷川委員長)

- ・今日は非常に有益な議論ができた。最初から枠組みを作ってしまうのではなく、やはりそこにお住まいの方の生活の実感に即した形で立ち上がっていくような地域計画でなければ

ばならない。計画の入口として非常に重要な問題であり、今後、例えば大学や美術館、博物館といったものどう連携していくかという議論も当然必要になるが、その基本的な議論もできたと思う。できるだけ意見の細部を落とさないようにした議事録を作成いただき、それを上手く汲み取った形で文書を作っていくことが一番良いと思う。

- ・次回は、山崎先生がおっしゃったように、おそらく千代田区の文化財の特徴の議論になる。そこもまた、生活と切り離れた文化財ではない、ということをきちんと踏まえて汲み上げていけば良いと思う。

5 その他

～事務局より、連絡事項などについて説明～

以上